

何もかもが初めての経験だった一年間を終え、いよいよ2年生になりました。始業式の日のお皆さんは、「今年は頑張ろう」「こんな一年にしよう」といったような期待や、「クラスに友達はできるだろうか」「勉強についていけるだろうか」という不安の入り混じった表情をしていました。

ただ、2年生としてのはじめの2週間で皆さんと一緒に過ごして、確信したことがあります。“この一年はすばらしいものになる”ということです。初めての学活での話を聞く姿勢やまっすぐな視線。2年生の抱負をつづった作文。お互いに高め合えるクラスにしたいという共通した願い。日常の様々なところから皆さんの「今年は頑張ろう」という志が見て取れました。すでに2-4という集団として、同じ方向を向いていました。私も頑張らなくては、と気が引き締まる思いがしました。

一人ひとりの前向きな姿勢が、周りの人やクラス全体の雰囲気に影響を与えています。皆さんが一年後、2年生を終えるときに、どのように成長しているのか、今から楽しみです。力を合わせて、実りのある一年間にしましょう。

これは、ある先生の学級通信「薫風」No.1の文面である。薫風と言えば、私が学級担任時代に毎日出していた学級通信のタイトルである。たまたま同じタイトルになったのではない。私の薫風に継承者がいるのである。

野田中学校のSS先生である。まだ2年目の若い教員である。今年度初めて学級担任となった。昨年度のうちから、「学級担任になったら学級通信を出します。タイトルは『薫風』にします」と言っていた。

ところが、4月6日（水）に出ない。4月8日（金）にも出ない。4月中旬となった。相変わらず出ない。さすがに余裕がないか。こちらもずっと声をかけなかった。しかし、物事にはタイミングがある。

いよいよもって「いつ出るの？」と声をかけた。彼には、それだけで通じる。きっと、いつ言われるかとびくびくしていたはずである。4月19日（火）ついに起案されてきた。すでに彼の師匠の一人である教務主任からのアドバイスが書かれた付箋が4枚も貼られてある。そこには、先輩からの愛情と期待があった。

楽しみにしながら読ませていただいた。それが上記の文面である。読み終わり、思わず花丸をつけてしまった。「文は人なり」である。生徒はもちろんのこと、この文章を読んだ保護者は、どんなことを思うだろうか。「薫風」を受け継いでいただいた者としては、うれしい限りである。

薫風とは、新緑の間を吹いてくる快い風のことである。5月に吹く爽やかな風である。担任紹介の最後には「この一年間を通して、皆さんと楽しいこともつらいことも共有しながら、一緒に成長していきたいと思っています。一年間、よろしくお願ひします」とあった。謙虚であり、爽やかである。

薫風の季節を過ぎ、これからが彼にとっては、重要な時期となる。2年目の教員としての方向性が決まる時期である。